

# 第1学年算数科学習指導案

貴志川町立西貴志小学校 宇田智津

単元名 ひきざん(1)(全体時間11時間)

コンテンツ名 「のこりはいくつ」(S02.mpeg)

第1学年 実施時期 1学期6月

## 単元目標

- 【関心・意欲・態度】 ・求残、求部分、求差をひき算の式に表すよさを知り、進んで式に表し、差を求めようとする。
- 【数学的な考え方】 ・求残、求部分、求差の場面を同じひき算と考えることができる。
- 【表現・処理】 ・求残、求部分、求差の場面を数図ブロックで操作し、ひき算の式に表して答えを求めることができる。
- 【知識・理解】 ・ひき算が用いられる場面や、ひき算の記号や式の読み方、かき方、計算の仕方を理解する。

本時の目標と展開(全11時間 本時はその2時間目)

内容	目標
のこりはいくつ(3)	・数図ブロックを操作し、求残の場面を理解することができる。 ・ひき算の式を知り、ひき算の式に書いて答えを求めることができる。(本時) ・数図ブロックを操作し、求部分の場面を理解することができる。
計算練習(2)	・ひき算のカードを使ってひき算の計算が確実にできる。
ちがいはいくつ(3)	・数図ブロックを操作し、求差の場面を理解することができる。 ・ひき算の式に書いて答えを求めることができる。
問題作り(1)	・ひき算の適用する場を広げ、ひき算についての理解を深める。
おさらい(2)	

## 学 習 活 動

(1) デジタルコンテンツを見て、課題理解する。

T「絵を見てわかることは何かな。」(音なし 4秒)

S「木がある。」

S「りんごがなっている。」

S「りんごの数は5つです。」

T「りんごの数だけ数図ブロックを並べましょう。」



(デジタルコンテンツの続きを見る)

T「そこへさががやってきましたね。何をしていますか。」(音なし 18秒)

S「りんごをとった。」

S「3つのりんごをとっていったよ。」

T「どのような式になるかな。式に表してみよう。」

S「 $5-3$ 」

T「画面を見て、もう一度確かめてみよう。」

(デジタルコンテンツを最初から音ありで通して見せる。)

T「さるがりんごをとっていったように、数図ブロックを動かしてみよう。」

T「のこりはなんこになったかな。」

S「2個。」

- ・デジタルコンテンツを順に止めながら見ることで、順序立てて場面を把握させるようにする。
- ・デジタルコンテンツを見ながらとるという言葉を理解し、言葉と操作を対応させて求差の場面を理解させる。

(2) 数図ブロックを操作しながらほかの問題について考えていく。

## コンテンツについて

大日本図書 算数数学の思考過程をイメージ化する動画素材集より

のこりはいくつ [http://www.dainippon-tosho.co.jp/mext/nhk/es\\_01/es\\_01\\_1.htm#02](http://www.dainippon-tosho.co.jp/mext/nhk/es_01/es_01_1.htm#02)